



ニコン本社・ニコンミュージアム特集

ニコン本社は港区港南から移転した西大井の新社屋で2024年7月に稼働を開始しニコンミュージアムも10月からリニューアルオープンしました！ニコン社員以外に入れない社内の様子も合わせてお届けします！

■ニコン新本社社屋取材！

▶ゆかりの地

ニコンは100年以上に渡って西大井に拠点を構え、様々な製品やサービスを生み出してきました。「西大井はニコンにとってのゆかりの深い土地」だそうです。地域の方にも利用していただきたいという思いから1階と2階の一部は一般開放されています。

▶City of Light

本社移転プロジェクト名「City of Light」には、光が集まる街のような建物にしたいという思いが込められているそうです。光の使い方にたくさんの工夫がなされているので、注目してみてください。

▶Activity Based Working (ABW)

社内には様々な種類の家具や打合せスペースがあります。大階段やダイニング、屋外のテラスなどデスク以外の場所でも勤務可能で、働く場所を社員一人ひとりが自律的に選択できる魅力ある社屋です。



本体外観

◎社員のおすすめスポット

- ・社屋のテラスからは、数分間に一度の間隔で白地に青のラインの東海道新幹線が通過する様子が楽しめます。
- ・アトリウム、エントランスホールには、美しい光学ガラスの廃材があちこちに埋め込まれています。

◎大井町とニコンの歴史

ニコンの旧社名が「日本光学工業株式会社」（ニッポンコウガクコウギョウ）であったことから、多くの社員が通勤に使用した大井町の通りが「光学通り」と呼ばれるようになったそうです。

◎共有スペース

近隣にお住まいの子どもたちや親子連れ、公園でスポーツ帰りの方々が、併設のコンビニ横の共有スペースで談笑されるなど、楽しく活用しているとか。私たちも、このアトリウムでゆっくり休憩できました！



眺めの良いテラス



大階段



共有スペース



アトリウム

■オープンしたばかりのニコンミュージアムを訪問！館内レポート

1917年に日本光学工業株式会社として産声をあげたニコン。企業博物館である「ニコンミュージアム」は、ニコンの100年を超える歩みを、「伝統と革新」を象徴する製品や技術、そこに込めた思い、多彩なエピソードとともに紹介してくれるミュージアムです。ニコン本社/イノベーションセンターの1階に位置しています。昔からニコンのカメラを愛用していた世代はもちろん、実際に触れて学べるコーナーが数多くあるので、小さな子どもも夢中になってしまうスポットでした。地域の子どもたちが学べる施設として、学校見学なども歓迎しているそうです。

“伝統と革新をプロダクトとエピソードで体感する”をコンセプトに4つのゾーンで展示



ミュージアムショップ

ニコンのオリジナルグッズを多数販売しています。おすすめは「ニコンひと口ようかん」とカプセルトイ！お土産や来館記念にぜひ購入してみてください。



編集後記：ニコンの歴史から最先端技術まで、ギュッと詰まったミュージアムでした！子どもも大人も皆で楽しめるので、皆さんもぜひご家族そろって行ってみたいはいかがでしょうか。

【取材：江島、小池、古賀、鈴木、関口、レイアウト：小池】

所在地：品川区西大井1-5-20

開館時間：10:00~17:30（最終入館は17:00まで）

休館日：月曜日、日曜日、祝日および当館の定める日

※土曜日が祝日の場合は休館となります。

※荒天や交通機関の状況などで、休館や開館時間の変更をする場合があります。

入館料：無料

お問い合わせ：(03) 6743-5600



一部写真提供：ニコン



エントランス
ニコンの原点でもある光学ガラスの歩みを分かりやすく展示。



コンシューマー
ニコンI型から始まる歴代カメラやレンズを紹介。ファン必見！



インダストリー
産業や学術分野に関わる製品を「みる」「うつす」「つくる」「はかる」に分類して紹介。



シアター
140インチの大型スクリーンで、ニコンミュージアムのオリジナル映像を公開。見応えがあります。